

新型コロナウイルス感染症緊急対策 東京藝術大学「若手芸術家支援基金」について

■プロジェクト概要

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策が取られる中、展覧会、音楽会の中止によって作品発表の場を失い、経済的にも不安定な状況が続く、芸術活動に大きな影響を受けている本学出身の若手芸術家（在学生を含む）に対して、芸術活動の持続化を支援するため「新型コロナウイルス感染症緊急対策 東京藝術大学 若手芸術家支援基金」を設置し、若手芸術家応援プロジェクトを展開します。社会にとって、世界にとって、芸術の力を未来へと繋ぐ希有な存在である若手芸術家たちの、今を救うこと、未来のカタチを模索すること、その二つがこの基金の使命です。

本基金の推進や各プロジェクトの実施については、卒業生・修了生、在校生、保護者、教職員、同窓会、本学との関連企業など“オール藝大”で進めてまいります。

各プロジェクトの実施については、東京藝術大学の自己財源に加えて、一般企業からの協賛金や東京藝術大学基金への寄附のほか、クラウドファンディングで集まった支援金を原資として活動を行います。

■基金キャンペーン期間

2020年6月9日～2022年3月末日

■若手芸術家の定義

在学生のほか、本学卒業生・修了生のうち主に40才までの方が対象となる予定です。大学卒業後の約15年間は、芸術活動が続いていくために、海外留学等を含めた幅広い自己研鑽を積むべき大切な時期です。一方で、まだキャリアが確立されず、収入が安定しづらく、最も支援を必要とする世代でもあります。

■基金による応援プロジェクト（支援施策）

若手芸術家に、
新しい日常における
発表の場を。活躍の場を。

《オンライン》

- ・オンライン上に美術館、演奏堂を設置。若手芸術家による展覧会、演奏会を開催します。公募のスタイルを取り、賞と賞金を設定します。
- ・新たなWEBコンテンツの開発。ネットワーク上でリアルタイムな合奏を実現するアプリの開発や、若手芸術家支援プラットフォームの構築（若手芸術家の紹介・派遣など）

《オフライン》

- ・新しい日常における、芸術本来の“対面”による芸術鑑賞の新しい在り方を開く。若手芸術家による展覧会、演奏会を開催します。

経済的に困窮する
藝大生に
緊急の支援を。

在学生を対象とした修学支援の実施

- ・新型コロナウイルス感染症に伴う給付金
- ・オンライン授業に必要な通信機器の貸出し（通信費を含め無償）
- ・オンライン授業相談窓口の体制拡充

「I LOVE YOU」応援プログラム

本学が実施する芸術は人を愛する「I LOVE YOU プロジェクト」の第二弾として、卒業生らへ参画を募集。出品料・出演料として1人100,000円を助成（350人程度）

基金応援ロゴマークについて



新型コロナウイルス感染症緊急対策
東京藝術大学 若手芸術家支援基金

東京藝術大学

制作者：澁谷克彦氏（1981年美術学部デザイン科卒業）

<ロゴについて>

アートを生み出す源泉はアーティストのパワーにあります。そして世の中に生まれ出たアートはその美によって人々にパワーをもたらし、その人々はポジティブに世界を変え、そのことがアーティストにパワーを与える。アートの継続の歴史はそんな循環だったのではないのでしょうか。このデザインはそのイメージを形にしたものです。文字が植物のように伸びて方向を変えながら空間を満たしていくさまで、パワーの存在を目に見えるようにしました。さらに色は伝えるパワーです。社会性を黒、パワーそのものを赤、アートの純粋さを青というそれぞれの色に込めました。幸せな循環が永遠にあるよう願っています。

東京藝術大学「若手芸術家支援基金」クラウドファンディングについて

■プロジェクトタイトル

【東京藝術大学】若手芸術家支援基金 始動！#POWERTOTHEARTS.

■目標額

5,000万円

■実施期間

2020年6月9日～7月31日23時

■募集方式

ALL IN 形式（目標金額の達成有無に関わらず、集まった資金を受け取れる形式）

■プロジェクトページ

[https://readyfor.jp/projects/power to the arts](https://readyfor.jp/projects/power%20to%20the%20arts)

（クラウドファンディングサービス「READYFOR」内で寄附金募集中）

■支援金の使いみちとクラウドファンディングリターン

<支援金の使いみち>

◆みらいのカタチを創る

<オンラインプロジェクト>

○オンライン藝大アートフェスティバル（仮称）の開催（令和2年7月～）

オンライン上に美術館、奏楽堂（音楽ホール）を設置。若手芸術家による展覧会、演奏会を開催します。公募のスタイルを取り、賞と賞金を設定します。

○新たなWEBコンテンツの開発（令和2年6月～）

ネットワーク上でリアルタイムな合奏を実現するアプリの開発や、若手芸術家支援プラットフォームの構築（若手芸術家の紹介・派遣など）。

<オフラインプロジェクト>

○「新しい日常」における、対面芸術鑑賞会（令和2年6月～）

芸術本来の"対面"による芸術鑑賞の新しい在り方を開く。若手芸術家による展覧会、演奏会を開催します。

◆今を救う

○在学生を対象とした修学支援（令和2年5月～）

- ・新型コロナウイルス感染症に伴う給付金
- ・オンライン授業に必要な通信機器の貸出し（通信費を含め無償）
- ・オンライン授業相談窓口の体制拡充

○「I LOVE YOU」応援プログラム（令和2年10月～）

本学が実施する「芸術は人を愛する～I LOVE YOUプロジェクト」の第二弾を開催。卒業生らへ参画を募集。出品料・出演料として1人100,000円を助成（350人程度）。

※開催時期は現時点での予定です。時期や内容が変更になる可能性もあります

<支援者へのリターン>

- ・お礼状の送付
- ・寄附金領収書の送付
- ・プロジェクト報告書の送付
- ・各イベントの招待（30万円以上）
- ・称号授与（30万円以上）
- ・感謝状の授与（100万円以上）
- ・顕彰銘板の設置（100万円以上）

東京藝術大学「若手芸術家支援基金」応援団からのメッセージ（並びは50音順）

■秋元康（作詞家）



澤和樹学長にお声がけいただき、若手芸術家応援プロジェクトに参加させていただくことになりました。若手芸術家のみなさんの活動の場を守るために、いろいろな形で支援していきたいと思います。

■伊勢谷友介（俳優、映画監督、リバースプロジェクト代表：2001年美術研究科デザイン専攻修了）



どんな偉大な作家でも必ず修練期がある。その時間に生み出される瑞々しい作品や、音楽家達が、より多くのファンと触れ合う機会になると素敵だと思います。「危機をチャンスに変える」創造的、アーティスティックな基金になります様に！

■佐藤卓（グラフィックデザイナー：1981年美術研究科デザイン専攻修了）



経済的に困窮している芸術家は、昔からよくいます。何もかも満たされているところに、いい芸術は生まれないのかもしれませんが。ただし、今の社会情勢の影響を受け、才能を秘めた若者の活躍できる場が限られてしまっているのであれば、誰かが手を差し伸べてあげなければならない。芸術的感性は、これからさらに求められる時代になるのですから。

■野村萬斎（狂言師：1989年音楽学部邦楽科能楽専攻卒業）



数多の芸術が、幾多の疫病・災害を乗り越えてきました。我々が生きている限り、芸術はあり続けます。その芸術を諦めて、新たなる才能が流失・埋没することがないように、支援をしようではありませんか。そして彼等の活動が、更なる芸術継承の道を拓き、人々の日常の心を潤わすと信じています。

東京藝術大学「若手芸術家支援基金」応援団からのメッセージ（並びは50音順）

■葉加瀬太郎（ヴァイオリニスト・作曲家：音楽学部器楽科出身）



自分の生きている間にこんなことが起こるなんて思ってもみなかった。
誰もがそう思っているだろう。

僕にとってはデビュー30周年という節目の年でもあった。
当然春から大規模のコンサートツアーを予定していたが、リハーサルを終え照明演出を作り終えて、あとは初日を待つだけというところで延期を決めた。

僕のメインワークはコンサートだ。手足をもがれてしまったようなものだ。
非常にやるせない、寂しい気持ちのまま今日を迎えている。
その悔しさを僕は制作に向けた。
ひたすらに自宅のスタジオに籠城し音楽を作り続けている。
今皆でシェア出来ないのなら、しばらくは一人で出来る事を考えよう。
そして皆が安心できる日が来た時、僕はこの全てを皆に届けるつもりだ。

音楽であれ美術であれ、芸術の根本はリピドーだ。
衝動に忠実に従い、それを皆でシェア出来るものに昇華する。
その情熱と行動こそが芸術だ。

どうか皆さん、情熱を失わず自分の夢を追いかけてください。
今はその夢をじっくりと溜め込んでいてください。
一人の勝手な夢が、世界中の皆を巻き込む夢になる。それが芸術だから。

東京藝術大学「若手芸術家支援基金」応援団からのメッセージ（並びは50音順）

※以下の方々は動画でのコメント素材の用意がごさいます。

■コシノジュンコ（ファッションデザイナー）

未来に向けた創造を担う、藝大の皆様。エライ時代になっちゃいましたね。
このタイミングでコロナとの出会いというのはある意味で私たち試練であるかもしれません。
令和の時代になって新しい文化が始まるタイミングですが、新しい文化とは日本独特の、
オリジナリティのある文化を指すのだと思います。

今の時代は何をやっても世界に目を向けて、世界のために、世界感覚をもってやってきたわけですが、（新型コロナウイルス感染症が拡大するこの状況は）江戸時代で言う鎖国の事態のようになったわけです。江戸時代は日本独自の素晴らしい文化が作り上げられたわけです。

それを思い起こすと、今は世界に向かって発信というよりも足元を見て、例えば野球でいうとボールを投げるときに一度後ろに下がって溜めを作って勢いよく投げるように、今は「溜める」タイミングだと思います。今こそ日本のいい文化を作る時、思い起こすときが来たのではないかと思います。

そのためにはいろいろな支援が必要です。経済的な問題をはじめいろいろな問題があると思います。経済というのは文化を支えるスポンサーで無ければいけない、経済界も大変だと思いますけれどもぜひご協力いただいて、一緒になって日本の文化を作っていこうと考えています。ぜひご支援ください。

■隈研吾（建築家）

東京藝術大学の若手芸術家支援基金を応援します、隈研吾です。
今こそ若手芸術家の力が必要とされています。社会を元気にし、社会の新しいビジョンを示せるのが若手芸術家です。藝大の若手芸術家たちがこれからの生き方のビジョン、これからの美のビジョンを示してくれることを心から期待しています。

■さだまさし（シンガーソングライター、小説家）

この新型コロナウイルス感染拡大の影響で、音楽家も美術家も、芸術関係の人たちは追い詰められています。

この度、東京藝術大学が若手の芸術家に対する支援をしようと、発表や演奏の場をどうにか作ることができないかという基金を立ち上げたとのことで、僕もその応援団の一人として応援して参ります。

音楽に関わる人間の一人として、新型コロナウイルスの影響は非常に大きいです。ここを耐えて、素晴らしい花が咲くように応援してまいります。

がんばりましょう！

<本件に関する報道関係の問い合わせ先>

東京藝術大学「若手芸術家支援基金」記者発表会PR事務局（株式会社サニーサイドアップ内）
屋（おく:090-9152-6284）、加藤翔（090-6662-9540）、石黒(070-1639-9622)
tua_cf@ssu.co.jp